

総合情報メディアセンターNEWS

2021年 7月

第13巻 第2号



オリンピック観戦をもっと楽しく：本で知る五輪



新型コロナウイルス感染症が未だ収束しない中ではありますが、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。観客数を制限しての開催であり、また感染防止のため、テレビの前で応援するという方も多いのではないのでしょうか。オリンピック・パラリンピックについての本を読み、その背景や歴史、エピソードを知ったうえで観ると、きっともっと楽しめます。

今回の特集では、群馬大学の図書館で所蔵しているオリンピック・パラリンピックに関する図書をご紹介します。他キャンパスの図書館の本も取寄せ可能です。

オリンピックパラリンピックのスコイ話 / 大野益弘著（ポプラ社、2019）

小学校中級以上向けに書かれている本なので、分かりやすく読みやすいです。オリンピック・パラリンピックで活躍した選手個人に焦点を当て、日本だけでなく、世界の選手を取り上げています。子供の頃にテレビで見た選手の名前を見て懐かしく思えるかもしれません。子供向けですが、大人も楽しめます。

所在：理工図1F図書 請求記号 780.69:O67



今年こそパラリンピックをじっくり観ようという方は、ぜひお読みください。

所在：中央図開架 請求記号 780.69:F67

パラリンピックからの贈りもの / 平山譲著（PHP、2012）

パラリンピックに出場した7名の選手にインタビューし、それぞれの生い立ちや思いが丁寧に綴られています。この本の選手たちは、引退されていますが、読むと、東京パラリンピックに出場する選手のことを知りたくなり、パラリンピックを応援したくなります。

所在：理工図1F図書 請求記号 780.69:H69



オリンピック競技おもしろ大全：イラスト図解 / 雑学総研著（KADOKAWA、2020）

オリンピック33競技、パラリンピック22競技すべてについて、イラスト入りで紹介しています。各競技のルールや見所も解説されているので、観戦前に予習すれば、応援がもっと楽しくなります。

所在：理工図1F図書 請求記号 780.69:Z1



オリンピック秘史：120年の覇権と利権 / ジュールズ・ボイコフ著（早川書房、2018）

元プロサッカー選手で、バルセロナ五輪に出場経験のある政治学者による著書です。オリンピック開催の裏で、政治・経済・環境問題・テロetc. 様々な抗争と駆け引きがあり、それをスポーツ礼賛により覆い隠して開催されている…。コロナ禍でもあり、オリンピック歓迎ムード一色ではない今、この本を読んで考えてみるのもよいかもしれません。

所在：中央図開架 請求記号 780.69:B69



パラリンピックの楽しみ方 / 藤田紀昭著（小学館、2016）

パラリンピックの各種競技や見どころはもちろん、パラリンピックの歴史や興味深いエピソードを紹介した「パラリンピックの入門書」であるとの著者の言葉がありますが、まさにその通りです。





こんな本もあります-オリンピック関連本

現代オリンピックの発展と危機1940-2020：二度目の東京が目指すもの / 石坂友司著（人文書院，2018）

スポーツ社会学の研究者が、前回と今回の東京で開催されるオリンピックについて考察します。オリンピックと政治、商業主義について語り、東京オリンピックの意義を問い直します。

所在：中央図開架 請求記号 780.69:I84



スポーツを変えたテクノロジー：アスリートを進化させる道具の科学 / スティーヴ・ハイック著（白揚社，2020）

スポーツを変えたのはテクノロジーである、という話ですが、こちらは最新のスポーツ科学を解説した本ではなく、スポーツが道具の発展により、どのように記録を伸ばしてきたかをスポーツ工学の第一人者が分かりやすく解説しています。

所在：理工図1F新着図書 請求記号 780.67:H11



アスリートの科学：能力を極限まで引き出す秘密 / 久木留毅著（講談社ブルーバックス，2020）

トップアスリートの世界は高速化・高度化が進んでおり、そんなアスリート達の戦いには、スポーツ科学、医学、情報、テクノロジーが欠かせない…。どのように欠かせないのかを、国立スポーツセンター長である著者が具体的に解説しています。

所在：中央図開架 請求記号 U780.1:Ku28

理工図1F図書 請求記号 780.1:BL:2135



3語でできるオリンピック&パラリンピック英会話 / カン・アンドリュウ・ハシモト著（DHC，2019）

オリンピック観戦に来た外国人を案内するためのフレーズが多くありますが、別の場面でも応用できそうです。応援のフレーズもたくさん載っていますので、英語で応援する！と決めてテレビ観戦するのはいかがでしょうか。

所在：理工図1F図書 請求記号 837.8:H38



理工学図書館にて五輪をテーマに企画展示を実施中です！

理工学図書館では、オリンピック開催時期に合わせて、企画展示「東京オリンピック・パラリンピック開催記念」を開催しています。特集で取り上げた本だけでなく、オリンピック・パラリンピックに関する図書を展示・貸出しています。ぜひ手に取ってご覧ください。

期間：7/1（木）～9/6（月）

場所：理工学図書館1Fロビー



（理工学図書館 森山沙織）



隠れたデータベースを紹介しませく<Press Reader>

せっかくの機能が知られておらず、利用者の目から隠れてしまっているのでは、と思われるデータベースをご紹介します。

5,000紙以上の世界の新聞・雑誌をそのままのレイアウトで閲覧できるデータサービス「Press Reader」です。過去の記事は過去90日分まで閲覧できます。学外からもVPNで利用可能です。また、日本の雑誌も閲覧ができます（「25ans」「MEN'S CLUB」等）。

単に海外の新聞・雑誌を中心に集めたものと思われそうですが、知られていない機能その1として、掲載されている記事を出版元の言語で聞くことがで

きます（全ての新聞・雑誌ではありません）。リスニングやシャドーイングにどうぞ。

機能その2として、翻訳機能を備えています。このことで、世界各地の新聞・雑誌などを、簡単に読むことができます。世界各地のビジネスや歴史、旅行、ファッションなどの記事を、その時々気分や用途にあわせてぜひ活用してください。

（中央図書館 山村大）

<https://www.media.gunma-u.ac.jp/eresources/databases/libpress.html>



オリンピック情報の収集にもご利用ください！

教員展示「円周率は続くよ どこまでも」を開催します-中央図書館-

7月2日(金)放送のNHK「チョコちゃんに叱られる!」に出演し、円周率の謎を解説された伊藤隆教授(共同教育学部数学教育講座)にご協力いただき、中央図書館にて円周率をテーマとした図書展示を開催しています。

小学校で「3.14」と習った円周率は、小数点以下が不規則に果てなく続き、古代から多くの数学者を魅了してきた不思議な数字で

す。上毛かるたでもおなじみの和算家、関孝和も江戸時代に円周率の近似値を計算しています。展示では、小・中学生向けの円周率の説明から、数々の数学者が挑戦してきた円周率を求める計算まで、その歴史や奥深い魅力に迫る本を集めました。小説やエッセーなど、文系の方でも楽しめる読み物もあります。この機会に、円周率の奥深さに触れてみませんか。



(中央図書館 山内可菜)

学生図書選定キャンペーン第1次を実施中です! -理工学図書館-

理工学図書館では学生図書選定キャンペーン「読みたい! 読ませたい! in 理工学図書館2021」を実施しています。専攻分野に関する本が少ない、好きな作家さんの新刊小説が読みたい、一人暮らしに役立つインテリアや暮らしに関する本をチェックしたい、テレビで話題の小説やエッセイを読みたい、そんな思いを抱える学生さんは今がチャンスです。ジャンルを問わず、リクエストを受け付けています。

※コミック、雑誌、授業の教科書は対象外
キャンペーンで選定された本は1年間図書館内のキャンペーン図書コーナーの棚に並びます。毎年多くの学生さんに利用される人気コーナーにあなたのおすすめの本を並べてみませんか?

★募集期間: 6/14(月)~7/30(金)
★応募方法: ①My Libraryにログイン または ②館内設置の応募用紙で

★問い合わせ先: 理工学図書館
TEL:0277-30-1075
E-mail: stlib@jimu.gunma-u.ac.jp



(理工学図書館 渡邊さかえ)

Web of Scienceオンライン講習会を開催しました

4月27日(火)に学術データベースWeb of Science(以下、WoS)の初心者向けオンライン講習会を開催しました。WoSは、英語文献の検索や、投稿先の雑誌を選ぶ際に活用できるデータベースで、本学の方は無料で利用できます。クラリベイト・アナリティクス・ジャパン社の講師からは、基本的な操作方法や、検索した大量の文献から「読むべき論文」をいち早く見つけるコツ、自宅や外出

先からWoSへアクセスする方法、保存した文献の管理方法、引用文献リストを自動作成するツールなどを実際の画面操作を交えて説明いただきました。

申込者は学生・教職員合わせて93名、当日参加者は40名でした。申込者には、講習会資料や動画、寄せられた質問への回答をご提供しました。

今回初めてWoSを使ったという学生さんも多数参加されました。

ぜひ今後の研究活動にお役立ていただきたいと思います。

なお、クラリベイト社では目的別のガイド資料や定期的なウェブセミナー(参加無料・要申込)も提供されています。ぜひこちらもご覧ください。



(中央図書館 山内可菜)

SciFinder[®]講習会にもご参加ください!

SciFinder[®]はCASが提供する科学情報検索ツールです。物質の反応や合成などの基礎化学研究から医薬品、材料開発にわたる研究開発の最前線で利用されています。

定期的にオンライン講習会が開催されています。参加無料・要申込。

詳細はこちら→



パスワード付きファイル添付メール（PPAP）をやめるには？

「メールでファイルを受け取る時、ファイルが暗号化されていて、しばらくすると、パスワードもメールで送られてくる。」という経験をされた方は多いのではないのでしょうか？「そもそも、メールは暗号化されていないのだから、メールが全て盗聴されていたら、意味ないよね？」と疑問に思う方も多いと思いますが、その通りです。

この方法は「PPAP」と命名され^[1]、昨年11月に内閣府、内閣官房でもPPAP廃止が話題になりました^[2]。ただ、本当にやめるとすると、どうすればよいのでしょうか？

「パスワードをメールで送らない」という本来のPPAPの運用に戻すことがひとつの手です。対面、電話、Web会議等であらかじめ複雑なパスワードを共有しておきましょう。また、教職員用ファイルサービス^[3]を利用する方法もあります。学内のユーザ宛であれば、「ファイル共有機能」により、ユーザを指定してファイル共有することができます。必要に応じて、共有ドライブの作成も行っています。

学外のユーザ宛の場合、相手のGoogleアカウントやMicrosoftアカウントを利用して、Googleドラ

イブ、OneDrive、Teams等のビジネスチャットを利用する方法もあります。GoogleやMicrosoftを信頼することが前提となります。汎用的な方法はなかなかないですが「パスワードとファイルをメールで送る」では、本来の機密保護とはなりませんので、他の方法を検討してみましょう。

（准教授 瀧元信州）

[1] Password付ZIPファイルを送ります。

Passwordを送ります。

Angouka（暗号化）

Protocol（プロトコル）

[2] https://www.cao.go.jp/minister/2009_t_hirai/kaiken/20201124kaiken.html

[3] <https://www.media.gunma-u.ac.jp/ITservices/fs/fileshare.html>

着任のご挨拶



この度、令和3年5月1日付で総合情報メディアセンターに着任しました小川康一と申します。これまで企業で技術者としてインフラ構築に従事し、その後技術職員として大学の情報基盤の運用管理に従事して参りました。私の研究テーマのひとつに、「情報基盤運

用管理の効率化」があります。多くのネットワークや情報システムは、いまだ人手による運用管理が行われています。本学においても同様です。教職員を始め、様々な企業の方々の尽力により成り立っています。意外に思われるかもしれませんが、例えばロボットが自動で何かをしてくれたり、先回りして悪い箇所を直して動くようにしてくれたりすることはないのです。さらに、機械が相手ですから、突然故障したり、動かなくなったりします。ですから現場で対応する人たちは本当に大変で

す。そのため、自動化や様々な技術を活用することにより、運用管理に携わる人の負担を少しでも減らすことができると考えています。社会からの要請、利用者の方のご要望をお聞きしながら、コストを抑えた情報基盤の構築、効率の良い運用管理手法を模索していきたいと考えております。これまでの知識と経験を生かし、安心して利用できる情報基盤運用に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（講師 小川康一）

第20回桐生楽講座「園長が語る動物園の歴史や役割」

講師：齋藤隆浩氏（未来へはばたけ 山田製作所桐生が岡動物園 園長）

7月7日（水）15:30～ オンライン配信

詳細・お申込みはこちら→



群馬大学総合情報メディアセンター

荒牧地区：前橋市荒牧町4-2
昭和地区：前橋市昭和町3-39-22
桐生地区：桐生市天神町1-5-1

TEL (027) 220-7170
FAX (027) 220-7184



本コンテンツは、クリエイティブ・コモンズの表示-改変禁止 3.0 ライセンスのもとでライセンスされています。

Webサイト <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

図書館ブログ <https://blog.media.gunma-u.ac.jp/>

Twitter公式アカウント  @Media_Gundai